

# 山梨ライトハウス

第79号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>

山梨県盲人福祉センター(点字図書館)  
電話/055-222-3502-223-1113(貸出専用)  
青い鳥ホーム 電話/055-252-8994  
青い鳥成人寮 電話/055-224-5060  
青い鳥支援センター 電話/055-221-1260  
青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631  
青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566



山梨ライトハウスの理念は  
「視覚障害者の未来を照らす  
光の道標となること」です。

## CONTENTS

バリアフリーらいふ	1	感謝状を贈呈	5
ライトハウスニュース	2-3	居宅介護支援事業所青い鳥開所	6
花形幹雄理事長ご逝去	4	青い鳥支援センター活動報告	7
ボランティア紹介	5	お知らせ	8

## 新米施設長のお花見会

### バリアフリーらいふ

新年度が始まり五日目。前日まで暖かな日が続く施設のそばの温泉街の桜は信玄公祭りまで咲いていてほしいと思っているみんなの期待など気にも留めないように咲き急ぎ、若葉の緑がやや目立ってきました。この日、新米施設長にとつては初めての、また、利用者の皆さんにとつては久しぶりの外出行事が催されました。事前の綿密な計画に基づき車に乗って五分ほどで到着。おろおろする施設長を尻目に、スタッフは利用者の皆さんを手際よく介助して公園のベンチに誘導し、お花見会のはじまりです。

利用者の皆さんはやや冷たさのある風を感じながら、久しぶりの外の空気を楽しんでいきます。ここで新米施設長はぎこちなく一人の利用者に声をかけます。「寒くないですか。」すると「なあに大丈夫さ、俺の住んでいた所はもっと寒いからね」と元気な声が返ってきました。「どこに住んでいたの?」「大月。」「大月のどこ?」「都留高のそば。」「……ちよつと調子ができませんでした。どこから来たのか猫ちゃんも花見に参加し、川に掛けられたウッドデッキの上は足裏に感じる感触もなんとなくやさしく、かすかに聞こえる川の流れとともにお花見会の気分を盛り上げてくれます。

しばらくしてスタッフが用意していた甘酒タイム。甘酒は花曇りの空の下で心まで温めてくれます。「甘酒おかわり。」「甘酒は一杯ね。お茶飲んで。」「日ごろから気心のしれた利用者スタッフの弾んだ会話が賑やかです。甘酒の後はお散歩タイム。新米施設長も一人の利用者と川べりの桜並木を歩きます。まずはそつと小枝を引き寄せて桜の花を感じてもらいます。「花ももう終わらだね。葉っぱがもう出てるもの。」「そうだね若葉はどんどん大きくなるよね。」「桜の根元に腕を広げて回すと「この木は相当大きいねえ。」「植えてからもう相当たつてるね。表面がざらざらしてるもの。」

散歩のひと時が終わると、また、もとの公園のベンチに皆さん座り、記念写真をパチリ。

お花見会もいよいよ興が乗り、さつき二緒に散歩したSさんが武田節

の独唱。周りのみんなも合わせて手拍子して口ずさみ盛り上がりました。と、こんな感じで新米施設長の初めての外出行事は終わりました。これから多くの行事がありますが、早く皆さんの名前を憶えて利用者の皆さんの充実した生活に繋がっていききたいと思えます。

青い鳥老人ホーム

施設長 三 富

学



笑顔満開!



# ライトハウスニュース

## NEWS NEWS NEWS

### ● 盲人福祉センター

#### 青い鳥奉仕団第2回合同研修会

二月二十八日(水)盲人福祉センター研修室にて「視覚障がい者の読書環境」と題した研修会が開催されました。センター職員二名が講師として参加しました。穏やかな天気だったせいか、三十二名の点訳・音訳ボランティアの皆さんにお集まり頂きました。



点字図書を読書環境とは

研修会は、はじめに貸出担当からライトハウスにある蔵書の種類や数、貸出数、利用者へ図書が届くまでの流れについて説明をした後、拡大読書器やポータブルレコーダーなどの福祉用具を使い、利用者が実際にどのような方法で読書をしているのかを実演しました。音声拡大読書器「よむべえスマイル」については、今回のレジュメを読み取らせました。タイトルは少々誤読があったものの、その他の次第や講師の名前などはすらすら読み、性能の認識度を確かしてもらったことが出来ました。

次に、視覚障がい者であり図書館利用者でもある職員が、点字図書をどのようにして読んでいくのかについて話をしました。自身の点字との初めての出会いや、盲学校時代のエピソードなどを話し、その後発達したIT機器の中から現在便利に使われている「点字ディスプレイ」を紹介、パソコンの音声読み上げ機能などの実演をしました。



研修の様子

今回の研修会で、皆さんが製作した貴重な蔵書がどのように利用者の手に届き読まれているのかを知る機会となりました。ただだけでは幸いです。今後とも、利用者とライトハウスをつなぐ架け橋となつていただけるようよろしくお願ひします。

### ● 青い鳥老人ホーム

#### 春を告げるいちご狩り

三月二十日(二十二日)に、今年も藤田農園へいちご狩りに出かけました。いちご狩りは初めてと話すOさんは「十粒位は食べたいな」と話していました。が、いざ食べ始めるとあつという間に二十粒!「味も美味しいし、摘むのも楽しい」と上手に赤い実だけを摘んでいました。「そうと触ると赤い実は少し柔らかい」とコツを教えてくれました。指先に軽く乗せて確かめ、ヘタの上をちよんと折つては、次々と口へ運ぶOさん。「お腹いっぱい!美味しかった」と大満足でした。



沢山食べてね

#### 和太鼓を聴きながらの食事会

天候にも恵まれ、暖かい日差しの中、四月十日に笛吹市石和町窪中島にある「風林火山 響の里」に利用者二十八名、職員十四名の計四十二名で外食会に出かけました。会食開始と共に大きな太鼓の音が響き渡り、驚かれた方もいましたが「大きな音で体にすこく響くね。」

「初めて太鼓の音を聞いたよ。」と大変喜んでいました。帰りの際には「ほうとう美味しかった。また来たいね。」と早くも次回を望む声が聞かれ、大好評でした。



迫力の和太鼓演奏

### ● 青い鳥成人寮

#### 池田コーラス

三月十六日、池田コーラスの皆さんが来寮され数々の春の歌を唄っていただきました。二月に予定していましたが青い鳥成人寮もインフルエンザの猛威には勝てず、また外部からの持込を阻止するため余儀なく中止になったのです。節分の豆まきも中止するか、三月に改めて池田コーラスさんが見えになると聞き利用者の顔にも春が来た一瞬でした。

当日は朝から「お餅あるかなあ」：知らない職員は「お餅食べたいの?」と、ちくちくはくする会話の中、朝から首を長くして待っていました。

始まるとお雛様の前で春の曲が次から次へと流れ春色になりました。知っている曲なので皆で大きな声で歌うことが出来ました。待ちに待った、お餅の歌です。どんなお餅が食べたいのと言われると「黄な粉」「醤油」「のり」とあちらこちらから声が上がりました。小さい頃に食べたお餅を思い浮かべた人もいることでしょう。手遊び歌なので身体を動かし笑顔で楽しみました。成人寮では武田節も人気です。唄ってよし、踊ってよし、不機嫌な人もこの曲が流れると笑顔になる魔法の曲です。

声を合わせ心を寄せて唄うことのすばらしい時間をありがとうございました。



きれいな歌声に聴かれました



手作りの人形を使った演出



一緒に歌って踊って盛り上がりました



## 桃源郷マラソン

四月八日青い鳥ケアホームでは桃源郷マラソンに参加しました。昨年は雨の為出場を断念したので、昨年以來二回目の挑戦となりました。本番に向け三月頃より土日にはサイクリングロードにて練習を重ねていきました。マラソン当日、朝は少し肌寒い風が吹いていましたが、春のさわやかな日差しがなつかしく感じられました。練習の成果が表れていきました。沿道では地元の人々が「がんばれー」と小旗を振って応援してくれたり、競技場で待ち受けていたケアホームの応援組が声を援を送ると笑顔で手を振る余裕をみせながら、すべてのベアが時間内にゴールしていききました。タイムでは前回より五分近く縮めたベアもありました。レース後は公園にて皆でお弁当や屋台の焼きそば、ソーセイジ等お腹一杯食べた来年に向けて英気を養いました。応援組でも今回は参加したいとの声もあがり、これから練習を重ねる一つの目標に向け頑張ることで達成感を感じることが出来るよう努力していきます。



笑顔でゴール!



おいしいお弁当の後で...

## 今年度の目標は

平成三十年度ははじまり、青い鳥ホームの皆さんは新たな目標を決め、今年も患者さんの為に頑張りたいと張りきっています。青い鳥ホームでスローガンとして掲げたのは「患者さんの喜びを自分のことのように」です。皆さんの意気込みが感じられる素晴らしいスローガンです。首や肩また膝、腰などの痛みで日々辛い思いをしていたのに、マッサージに通い日常生活が普通に送れるようになったことは「本当に良かった」と誰もが思うことです。そんな患者さんの喜びは治療をしている私たちの喜びでもあります。ホームの皆さんは視覚に障害を持っていきます。日頃地域の皆様から多くの支援をいただいています。その感謝の気持ちはこの事業者さんよりもマッサージに込められています。

青い鳥ホームの皆さんの治療目標です。

- ・〈相澤よし江さん〉
- ・生活目標…毎日日記をつけ療養の向上に心がけます。
- ・治療訓練…五十肩の治療ができるよう日々努力します。
- ・〈清水きくのさん〉
- ・生活目標…人の話をよく聞く。(忘れたり、勘違いをしてしまうことがあるので。)
- ・治療訓練…治療訓練では同じことを注意されないよう努力します。

〈中澤恵美さん〉

生活目標…桃源郷マラソンに出



青い鳥ホームでのマッサージ

られるように練習します。現在通っている職場の仕事を休まない(現在皆勤賞)

- ・治療訓練…左手を右手と同じくらいの力を入れてマッサージできるようにします。
- ・〈山口恵子さん〉
- ・生活目標…整理整頓、清掃は念入りに行い患者さんを気持ちよくお迎えします。
- ・治療訓練…患者さんに満足してもらえらるようマッサージをします。

ぜひ皆さん一度、青い鳥ホームまでマッサージにいらして下さい。マッサージのコースは、九十分三十分、ご希望により六十分二千円です。

ご予約は電話でお願いします。電話〇五五二二五二一八九九四 治療指導員(酒井)まで。



青い鳥ホームでお待ちしています

## お花見&amp;味噌作り

今年の桜の開花は早かったですね。支援センターでは、今年度初めてのお花見を計画していました。「花が咲くかな」「雨は降らないかな」というスタッフの祈りが叶い、三月二十一日は満開の桜の下お花見を楽しむ事が出来ました。ドラゴンパークをお散歩したり、体を動かしたり、花より団子のスタッフは豪華なお弁当とおやつをいっぱい準備し当日はみんなとのんびりとした楽しい一日を過ごしました。また、二月には毎年恒例の味噌作りを行いました。当日、ちょうどオリンピックファイアースケートの羽生、宇野尚選手が演技が行われており、味噌作りにも熱が入るといふ気合の入った日を保護者の皆様と過ごすことが出来ました。前号巻頭の言葉にあったように、支援センターは「利用者さんの屈託のない笑顔をみたい」「頑張る皆さんのお手伝いをしたい」の気持ちをお忘れず、今年度も地域のよりどころになれる場所であり続けたいと願っています。



美味しい味噌にーれ!



きれいに出来たよ!



恒例の味噌作り



満開の桜と共に、春が動き出しました



景色を見ながら散歩でお散歩



# 花形幹雄理事長ご急逝



山梨ライトハウス花形幹雄理事長が平成三十年四月十一日に八十三歳でご急逝されました。ここに生前のご厚誼を深謝し衷心より御礼申し上げます。

花形理事長は、昭和三十年四月創設から数ヶ月の山梨ライトハウス点字図書館に就職しました。創設者の長谷部薫氏と共に視覚障害者福祉の向上にご尽力されました。昭和三十年十一月には県民に広く視覚障害を理解していただくため「白い杖愛護運動」を開催します。山梨県・山梨県教育委員会と共同で開催し当時は駅前での白い杖行進や奉仕者また白い杖愛護作文の表彰を行い、理解の輪を広げてきました。また同年「山梨県盲人会」現山梨県視覚障がい者福祉協会が設立され役員を歴任する

など、現在は名誉会長として務められておりました。

花形理事長は一貫して「差別や偏見をなくすには子供のころからの教育が必要だ」と、小学校へ出て向いて福祉講話を行い、市町村へ出掛けては支援の輪を呼びかけました。

平成二十六年理事長に就任し「私は見えないからこそ、視覚障害の悲しみ、辛さがわかる。山梨ライトハウスが視覚障害者の灯台となるべく尽力したい」と話されておりました。そんな花形理事長の障害者福祉への姿勢は我われ福祉職員の道標です。「礼拝」

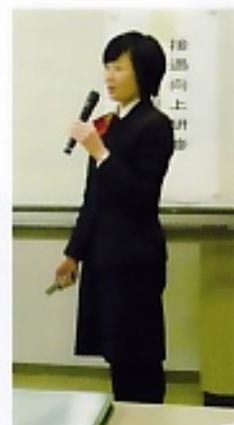


在りし日の花形理事長

# 平成29年度山梨ライトハウス職員研修

## 職員研修会「接遇向上研修」

この度、山梨ライトハウス職員研修にて、山梨中央銀行経営コンサルティング株式会社 経済調査部 西川美紀先生のご講演を拝聴しました。今年のテーマは、「接遇向上研修」であり、接遇マナーの必要性や第一印象の重要性について学べる大変有意義な時間だったと感じています。今後は福祉の世界においても益々利用者Ⅱ（イコール）お客様という考え方が重要度を増す事が考えられます。お客様である以上、福祉の世界であっても接遇マナーを学ぶ事は、至極当然です。福祉施設事業所等で働く職員は、職種問わず、接遇マナーなどの人的サービスを相手から強く求められていると改めて意識する事が大切だと感じました。職員の人的サービスの向上が、他施設、他事業所と



講演する西川先生

の差別化を図る上で最も重要であり、利用者満足度の上昇、クレームの減少にも繋がるという相乗効果を生み出す事が理解出来ました。

人的サービスを向上させるポイントは、ホスピタリティ（想像力）と第一印象（笑顔）が重要との事でした。想像力を養うトレーニングとして、二人一組で簡単なワークを行いました。職員間の更なる親睦とモチベーションアップを視野に入れ、施設内研修に取り入れても面白いと感じました。

「自分一人の対応がその人にとっては全てであり、一人の態度で施設全体が評価される事を忘れて下さい。」と講演の中で先生がお話していた通り、普段何気なく相手と交わしている挨拶や日々の電話対応、言葉遣いを改めて見直し、相手に悪い印象を与えていないかを常に意識しながら業務に当たるといふ事を実践する必要性を覚えていただきました。

接遇マナーの習得は難しい事のように感じますが、笑顔のメリットを信じ、いかなる時も笑顔を忘れず、先ずは「キープスマイル」から始めて行きたいと思えます。



熱心に聴いています



# ボランティア紹介

山梨青い鳥奉仕団

点訳部

長瀬 由美子

平成十九年に点訳講習を修了しましたが、新たな仕事に就いたことにより、点訳はお預けとなってしまいました。仕事が終了し、二十四年度の講習を再度受講、初めての一冊を頂いたのが、二十五年の夏でした。

やっと、点訳に向かい合えることができ、嬉しくて、楽しくて、一日の大半の時間を費やしていました。しかし、複数回（三校五校）の校正を経て、一冊が仕上がるまでに、ページ数にもよりますが、半年から十か月近くかかります。始めたころは、早く、早くと仕上がりをお急ぐ気持ち先行し、誤脱、脱字等単純な間違いがたくさんありました。正確さを心掛け、前以上に辞書で確認したり、インターネットで調べたり、校正での指摘を減らそうと努力するのですが、いつも、予想を上回る訂正が帰ってきます。すると、がっかりしたり、情けなかったり、なるほどと校正者の指摘に感心したりしていました。

そんな中、読者の皆様と交流する機会があり、お喜びの言葉をいただきました。



これには、感激し、心を強くしました。さらに、昨年、点訳奉仕活動に対し、知事表彰をいただきました。それも、私に、「めげずに、励めよ」と言ってくれているのだと受け止めています。

点訳をしていると、楽しいこともたくさんあります。奉仕団の活動に参加することで、読者とふれあったり、一緒に考えてくれる仲間がたくさんできたり、家族も応援してくれたりすることです。中でも、私の楽しみは、普段自分では手にしないような本を点訳・校正することで、活読できることです。

これから、人生の後期に入り、自分の時間が多くなります。一冊でも多く、喜んでいただける本を仕上げていきたいと思っています。

## 感謝状を贈呈

3月23日に開催された山梨ライトハウス役員会の席上、花形理事長より次の皆さまに感謝状並びに表彰状を贈りました。

### 【感謝状】

- 新藤 恵 様 (青い鳥奉仕団 福祉功労者)
- 伊原 豊子 様 (青い鳥奉仕団 福祉功労者)
- 深沢 弘子 様 (青い鳥奉仕団 福祉功労者)
- 坂爪 宏子 様 (青い鳥奉仕団 福祉功労者)
- 佐藤久美子 様 (青い鳥奉仕団 福祉功労者)
- 越中美智子 様 (法人本部 寄付金品等の功労者)
- 清水美枝子 様 (法人本部 寄付金品等の功労者)

### 【いきいき輝き賞】

- 萩原 澄子 様 (青い鳥成人寮)
- 池谷喜久子 様 (青い鳥老人ホーム)

### 【表彰状】

- 小林 康司 様 (青い鳥成人寮 永年勤続)
- 代永 充弘 様 (青い鳥成人寮 永年勤続)
- 小畑 栄一 様 (青い鳥老人ホーム 永年勤続)
- 中川 涼子 様 (青い鳥老人ホーム 永年勤続)
- 中島 大佑 様 (青い鳥老人ホーム 永年勤続)



受賞者の皆さん



奉仕団の協賛の受賞



いきいき輝き賞



# 「居宅介護支援事業所青い鳥」開所

○居宅介護支援事業所青い鳥

介護を必要とされる方が、在宅において適切に介護サービスを利用できるよう、介護サービスに関する相談の受付や本人・家族の状況や希望に沿ったケアプランの作成、介護サービス提供事業者や行政との連絡・調整等を行います。

居宅介護支援事業所青い鳥は「青い鳥支援センター」内にあり、「ヘルパーステーション青い鳥」「相談支援事業所ヴィーヴィ」との連携を図り、利用者様に対しスムーズな対応を行えることが利点だと思っています。当事業所は、創設当初より障害者福祉と高齢者福祉に携わってきました。その経験を活かし、ご本人の特性や状況に合ったより良いケアマネジメントが出来るのではないかと考えています。

また、山梨ライトハウスでは長年にわたり視覚障害者支援を行っており、視覚障害の方にもスムーズに対応が出来る事が強みだと思っております。

どんな小さなことでも、ご気軽にご相談ください。

社会福祉法人 山梨ライトハウス



社会福祉法人 山梨ライトハウス

## 青い鳥支援センター

ヘルパーステーション青い鳥  
居宅介護支援事業所青い鳥  
相談支援事業所ヴィーヴィ

日中一時支援  
福祉有償運送

TEL.055-221-0880

## 読者と青い鳥奉仕団との交流お楽しみ会

青い鳥奉仕団理事 長瀬 由美子（点訳）

井口 登美子（音訳）

今年の交流お楽しみ会は、二月十八日（土）の午後、盲人福祉センター研修室で開催いたしました。参加者は六十三名。読者と奉仕団が半々でちょうど良いバランスでした。

前半は、参加者全員の自己紹介から始まり、読者の加賀美さん、石坂さんの心に響く演歌歌唱や、複数のハーモニカを操っての素晴らしい小笠原さんの演奏、そして奉仕団音訳部有志による甲州弁による「シンデ



ハーモニカの演奏に聞き入る参加者

レラ」の群読では、参加者全員で大笑いして前半を終了しました。

後半は、八つのテーブル毎に楽しみをお楽しみし、奉仕団によるなぞなぞ・クイズを楽しんだあと、各テーブルに置かれた数々の品物を、号令に合わせて受け取るプレゼント交換をし、最後に読者代表（市瀬さん、埴村さん、岡部さん、返田さん）の心こもった感想を伺い、「今日の日はさようなら」を参加者全員で合唱しお開きとなりました。

この交流会で、参加者と奉仕団との心が一つになり、奉仕団員にとって日々の点訳、音訳を続ける決意を新たにしたり日でもありました。開催に関わって下さった皆様、ご協力ありがとうございました。ぜひ来年も大勢の読者の皆様のご参加をお待ちしております。



奉仕団音訳部有志による群読



# 青い鳥支援センター 平成29年度の活動報告

今年度は秋近くまで台風がきたり寒かったりと日中二時の活動も天候に左右された年度となりました。しかしそんなことにはめげずに日中活動は怪



我もなく一年の活動が無事行えました。毎年恒例のBBQやクリスマス会等の他に、七月には流しそうめん大会、八月にはカラオケ大会九月にはボーリング大会等、毎月一度のお楽しみ会にも多くの皆様にご参加頂けてとても賑やかに日々過ごせたと思います。

青い鳥の日中一時は、平日学校や仕事で頑張っている皆さんの休息の場として考えています。大きな行事がメインではなく、休日をいかに体を休め心を休められるかを考慮し環境を提供しています。行事のない土日でも皆で散歩へ行ったり、おやつを作ったり、地域のお祭りへ参加したりとのんびりだけどくろげる空間になっ

ていますよ。なので、職員も楽しいのです。今年度はいくつか新しい試みもありました。外部の講師の方に来ていただき紙漉きをして染書き作り体験を行いました。初めての作品には皆大感動！集中して参加できましたね。その他、荒川で凧揚げをおこなったり、水遊びをしたり…。

皆さんと季節を感じながらこれからも活動していきたいと思えます。

四月からの日中二時事業も色々企画しています。昨年のBBQではピザと焼きそば等を大量に準備したのですがすごい勢いで皆さん完食！ハイキングをした後なのでお腹ペコペコでしたよね。原さん望月さんが「しばらくお肉はいらない」という量でした。流しそうめんでは、宮原さんと坂本さんの気合いが入ります。竹の切り出しからセットまで完成度の高い流し棚です。料理は流しそうめんに入合う天ぷらをスタッフが揚げます。お福荷さんと天ぷらの組み合わせは最高！今年もこうご期待。昨年のハイキングは台風の直撃で急きま保健

センターへの調理教室に変更しました。大型バスの送迎もあり、kさんの料理上手が新発見できたりと楽しい一日でした。こあスポーツでは、スタッフも運動不足解消の為張り切ります。毎回筋肉痛になるスタッフは衰えてますね

（笑）クリスマス会では、素敵なドレスを着てきてくれたAちゃんに皆釘づけ♡ゲームでは本気でパン食い競争をしたり、カラオケを楽しんだり皆がずっと笑っている時間がとても感動的でした。二月には毎年恒例の味噌作りも行いました。この味噌じやなきや！と毎回大好評の味噌作り。話をしたり、マシマロや焼き芋をしたりとまったりした楽しい一日になりました。



美味しくカレーライスができました



楽しかったクリスマス会

私が個人的に好きな活動は工作です。今年もフォトフレームを作りましたが、今年度も思い出に残る作品が二つ出来ればと思います。支援センターで皆さんの窓口としてやり取りをしてくれる清水さん。なんでも知ってる田村さん。頼れる中島さん。色んなスタッフの個性が詰まった支援センターは毎日賑やかです。その他にも、料理上手で行事の際には必ず料理長をしてくれる申松さんと越石さん、日中二時を支えてくれる田中さん・山口さん・雨宮さん。頼もしい相談事業のスタッフ。子育て経験豊富なスタッフで新年度も盛り上げていきますね。



## 川柳

（四月のライトハウス川柳会から）

浅川和多留 選

身の丈に生きる幸せ桜花

河口 竹子

あああの頃にあの頃に帰りたい

中村 洋子

俺の愚痴グラスの酒が笑ってる

細川 一

後ろへは戻れぬ青い空が見え

花形 幹雄

日々新たな先の見えないゴールへと

高取 康平

大の字になれる幸せここに

今村 晴美

満月とコラボの桜優雅なり

桑原 梅次

健脚を競う老若桃の花

桧村 和美

散りかけた花惜しむ声歌う声

加藤 隆



## 気軽にみんなで 楽しく歌いませんか？ 「コーラス同好会」♪

昨年11月から活動を始め、童謡唱歌などを楽しく歌っています。興味のある方は、代表内海知子(TEL.055-251-0048)まで。

■日時 毎月第4日曜日

午後2時半～3時半位

■場所 山梨ライトハウス盲人福祉センター  
2階ボランティア室

※歌詞カードは、点字や拡大文字を会で用意します。



みんなで声を合わせて

## 平成30年度 青い鳥成人寮作品展示即売会

今年も毎年恒例の作品展示即売会を開催致します。丹精込めて作った陶芸作品や手芸品の数々を販売しますので、皆様の御来場を心からお待ちしております。

■場所 オギノリバーシティショッピングモール  
1階特設会場

山梨県中央市山之神1122

■開催日時 7月20日(金) 12:00～20:00

21日(土) 10:00～20:00

22日(日) 10:00～16:00



## 山梨ライトハウス 川柳会では会員を 募集しております。

日ごろみなさんが感じていること、考えていることなど、何でもいいです、川柳と一緒に楽しんでみませんか。

定例会

毎月20日頃(前月定例会で決めます)

午後1時～3時

■ところ 山梨ライトハウス  
盲人福祉センター

■会費 無料

■指導 浅川和多留先生  
(山梨県川柳協会副会長)

■作品締切 毎月10日  
(題詠2句 雑詠5句まで)

■問い合わせ先

山梨ライトハウス盲人福祉センター  
功刀・鈴木まで  
055-222-3502

興味・関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。

## 第36回 長谷部賞の贈呈

山梨青い鳥奉仕団 等々力さか江様(75歳)

(写本部 昭和47年2月入団)

等々力様は、昭和47年3月から奉仕活動を始めました。ピトコービッチ著「ミーチャとまほうの時計」を皮切りに、アンネ・フランク著「アンネの日記」、樋口一葉著「大つごもり」「たけくらべ」など、和書・洋書に限らず幅広く、平成30年3月までに140タイトル、1,350冊、259,414頁を製作しました。

活動開始時は、サインペン一本でこつこつ書き綴る大変な労力で仕上げていましたが、現在はパソコンを駆使して製作できるようになり、現在に至っています。

その他の表彰 昭和52年 知事表彰  
平成2年 日盲社協感謝状



受賞者の等々力様(右から二人目)  
祝福する青い鳥奉仕団桂田理事長と団員

### ■長谷部賞について

視覚障害者福祉不毛の地といわれた山梨県に、道標となる灯台「山梨ライトハウス」を創設、「山梨県盲人会(現・山梨県視覚障がい者福祉協会)」「青い鳥奉仕団」の設立をするなど、本県の障害者福祉の向上と発展に半生を尽くされた、長谷部薫先生の功績を永く記念するため、本賞を創設しました。

本賞は、昭和58年より贈られていますが、永年にわたり視覚障害者の文化の向上と福祉の増進に尽力され、その功績が特に顕著な方に贈られますが、これまでに今回も含めて42名の方が受賞されています。